



大分合同新聞 2023年11月11日（土）朝刊 2面

〔問①〕各段落ごとの小見出しをつけよ。
(計9個)

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

〔問②〕小見出しを踏まえて記事の内容を
100字以内で要約せよ。

ネットオークション経由で474年
ぶりに戻った神護寺の「迷企羅大将」
像と宝珠典隆住職（大分市鶴崎）



地域で長く受け継がれてきた文化財が所在不明となるケースが後を絶たない。特に仏像は近年の人気の高まりから転売目的の盗難が増えている。住民の高齢化や人口減少で目が行き届かないのが実情だ。管理や防犯態勢の強化が喫緊の課題となる。共同通信の調査では、全国の

都道府県が条例に基づき文化財に指定した美術工芸品約1万1千件のうち、盗難や紛失などで計151件が所在不明となっている。大分県でも291件のうち、12件が所在不明。都道府県ごとに指定件数が異なるため一概に比較はできないが、不明件数は全国で4番目に多い。

県内で盗難が開示されている指定文化財は▽宇佐市妙楽寺が所有していた平安時代の「木造阿弥陀如来座像」▽国東市国見町の地区が管理していた平安時代の「木造釈迦三尊像」のうち2体▽別府市美術館にあった古墳時代の馬具「唐草文透彫鏡板」の3件。だが地域の文化財となれば数え切れない。古物営業法は盗難品の売買を禁止しているが、インターネット

論説

2023.11.11

文化財の所在不明拡大



継承者を育て宝を守ろう

トオークションを通して取引される事案が増加。実際に2021年6月に京都市内の寺から盗まれた仏像が22年5月に県内の古物商によりオークションに出品された。通報により窃盗犯は逮捕され、像は寺に戻った。また今年3月には大分市鶴崎の神護寺の守護神で十二神将

どに安置。本物は県立博物館に預けている。背景に10年春からの1年間で160体以上の仏像が盗まれたことがある。被害のほとんどが無人の寺だった。

県は4年に1度、県指定の文化財について所在や管理体制を確認する調査を実施。市町村や文化財保護指導委員が見守りも

の一つ、「迷企羅大将」像が474年ぶりに戻った。オークションに出されていた像を山梨県の美術館が見つけて連絡。落札者の古物商から任職が買い取った。

「なまのか」との声もあったが、住民の高齢化で管理ができない状況を鑑み合意した。12年からこれまで約40体を置き換えた。

担うが、マンパワー不足は否めない。これを埋めるには従来地域の文化財と関わりがなかった人たちを呼び込むしかない。祭りなど行事の参加者や出身者が地元に戻った際、関心を持ってもらえるよう地域を挙げて取り組む。継承者を育てることで地域の宝を何としても守りたい。